

# 木材需要拡大に向け多様な提案

## 低炭素・循環型社会の実現に貢献へ

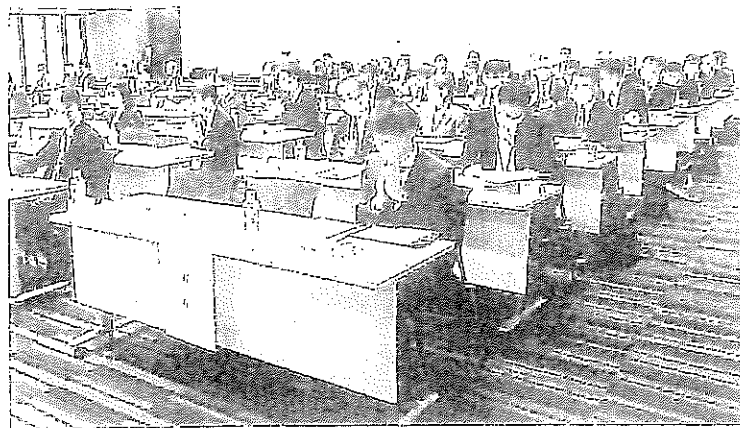
### ウッドレガシー推進協議会

木の総合文化・ウッドレガシー推進協議会(原口博光会長)は11月13日に第4回要望活動発表会を衆議院第一議員会館で開催。木の総合文化(ウッドレガシー)を推進する議員連盟からは衛藤征士郎会長や吉野正芳副会長などが参加。中央省庁では内閣官房や農林水産省など7省庁から担当者が集まり、本郷浩一林野庁長官も出席した。

今回の要望活動における主な内容として、難燃薬剤処理木質材料(不燃木材)の製品JAS化の検討や防音用窓サッシへの木製窓の追加、素材生産での冬季事業対策、ドバイ万

博や大阪・関西万博での日本の木材の需要拡大を目指す情報発信への取り組み支援などが伝えられた。また、間接的な分野では、害獣処理や海藻類などの海洋資源、公共事業の発

注方式、コロナ禍での労働市場改革など幅広い



各省庁から多くの担当者が集まった

本郷長官は参加した省庁を代表してあいさつし、「山村の持続のためにも生長した木を地域資源として生かしていくかなくてはならない」と述べた。

い要望が行われた。原口会長は「SDGs、ESGの推進で森林林業・木材産業の立ち位置は重大な局面にある。低炭素社会、循環型社会のために日本産材(国産材)の民間需要を拡大していく必要がある」と話した。